

アメリカの政党政治と保守

はじめに

1 2017年8月 ヴァージニア州

- a 差別抗議デモと白人至上主義者の衝突
- b 白人による被害者意識

2 2021年1月

- a 連邦議会乱入事件
- b 分断や陰謀論で扇動



はじめに

3 2024年大統領選挙

- a トランプが返り咲き
- b インフレや不法移民を批判

4 本稿の目的

- a 建国から今日までの政治の歩み
- b そこからの保守の形成

第1章 政党政治とイデオロギー

1. 第1節 政党政治とイデオロギー
2. 第2節 アメリカの政党政治 建国から
3. 第3節 アメリカの政党政治
南北対立から奴隷解放

第1章 第1節

1 民主党：リベラル 共和党：保守

a 保守：宗教右派、小さな政府→自己統治

b リベラル：社会保障、連邦政府の役割重視

ア 1929年ルーズベルト「ニューディール」

2 アメリカの保守の歩み

a 反共としての保守

b 60年代ケネディ・ジョンソン政権下

c 70年代「暗いアメリカ」からの脱出としての保守

第1章 第1節

3 アメリカ式保守主義の特徴

- a ヨーロッパ的権威主義の「否定」
- b 新大陸入植は「神から与えられし使命」

4 「実験国家」 アメリカの実験は今でもなお

- a 同じく実験国家「ソ連」は70年で崩壊

第1章 第2節

1 入植と独立

- a 18世紀前半までに大西洋沿岸に13植民地
- b 英仏戦争後、イギリスが植民地に圧力強化
- c 植民地の反発→独立戦争

2 13植民地の歩みと2つの派閥

- a 君主を置かない「共和制」
- b 13植民地のまとまりとしての憲法起草
- c 連邦政府の権限に関する対立
 - ア 連邦派：連邦政府の権限大
 - イ 共和派：各州の権限を優先



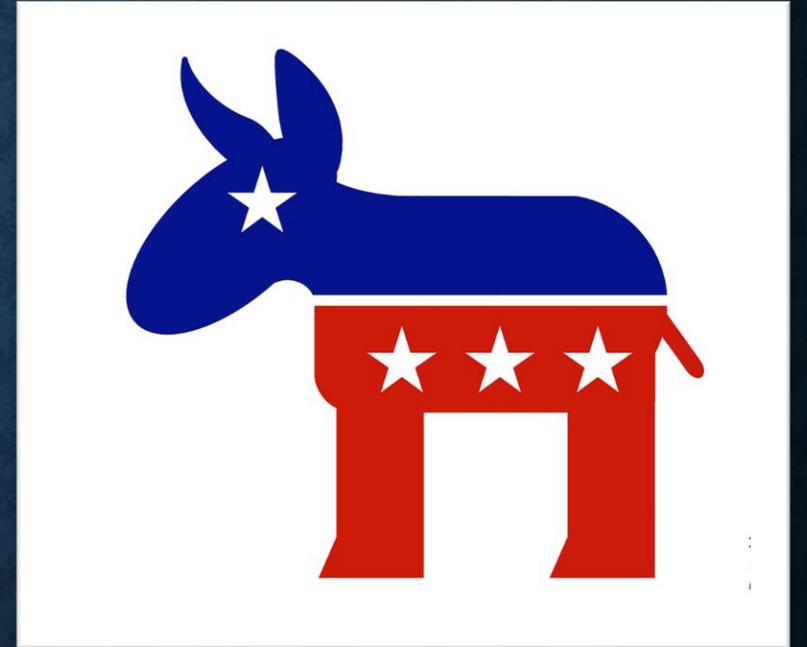
第1章 第2節

3 共和派の台頭

- a 1800年革命:共和派のトーマス・ジェファークソンが勝利
- b 政権が連邦派から共和派に移行

4 民主党の誕生

- a 西部開拓につれ、奴隷制に関する対立発生
 - ア 1824年 アダムズとジャクソンの対立
- b 1828年大統領選挙
 - ア アダムズはジャクソンを「ロバ」呼ばわり
 - イ 接戦の末、ジャクソンが勝利
 - ウ 民主的な勝利の象徴「民主党」が誕生



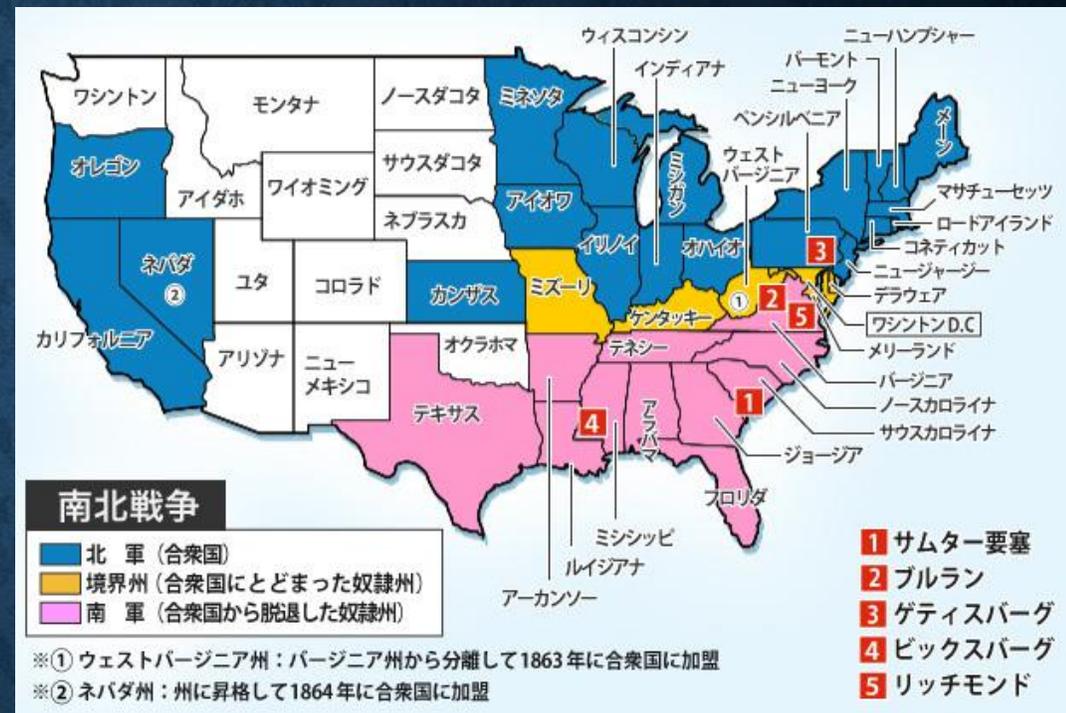
第1章 第3節

1 共和党の誕生

- a カンザス・ネブラスカ法(1854)
 - ア 奴隷制採用の有無を一任
- b 北部の奴隷制反対派が「**共和党**」結成
- c 1856年選挙
 - ア 共和党は敗北も第二党の地位獲得
- d 1860年大統領選挙 リンカーンが勝利

2 南北対立と戦争

- a 南部の奴隷制主張州が離脱
- b 1861年の軍事衝突から開戦





第1章 第3節

3 戦争の目的：合衆国の維持

- a その手段としての「奴隷制廃止」
- b 捕虜の奴隷の処遇に困惑

4 奴隷制廃止の北軍が勝利

- a 共和党は瞬く間に全国規模政党に
- b 民主党は南部で支持を確立
- c 民主党・共和党の二大政党制が確立

第2章 第1節戦後再建と19世紀

1

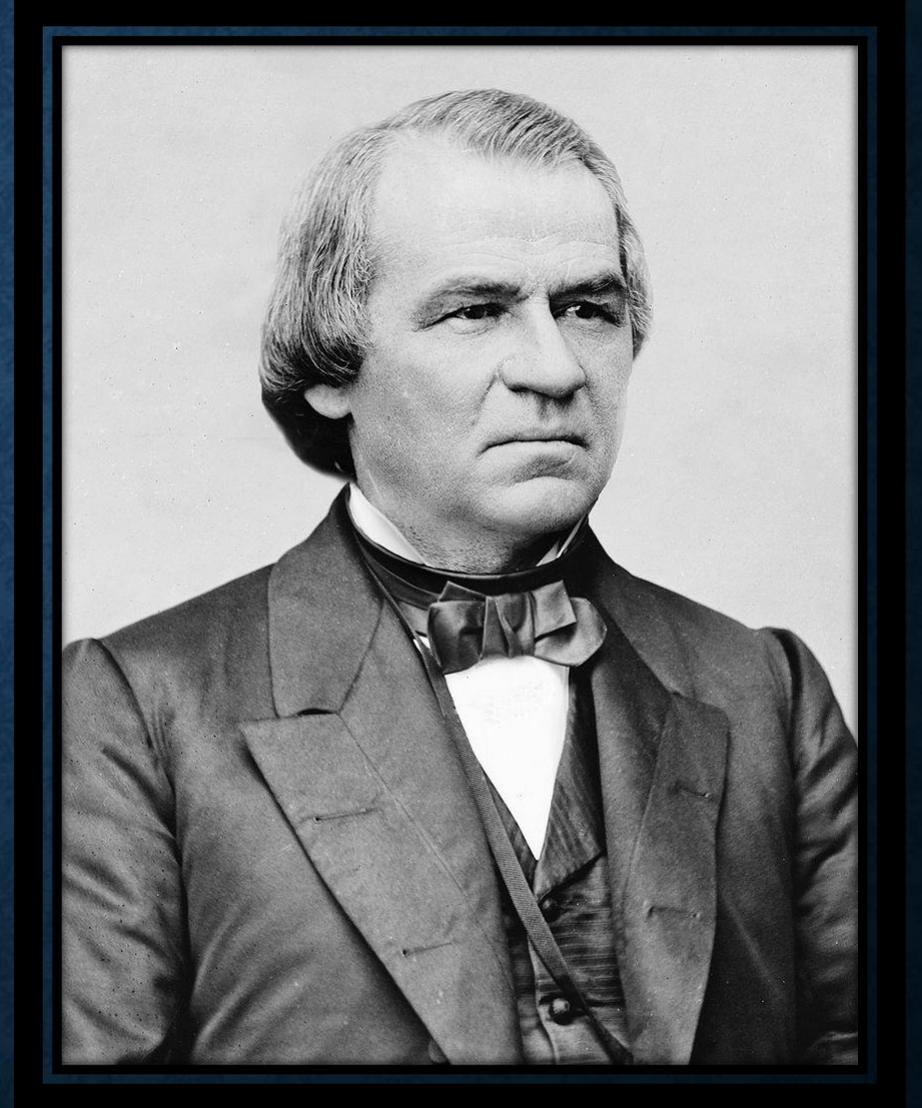
戦後の**共和党**分裂

- a **南部諸州**の復帰に関する派閥
 - ア 南部復帰条件をを厳格か、寛容か
- b 1865年4月 リンカーン暗殺

2

新大統領ジョンソン

- a **南部出身**で南部諸州に穏健的
 - ア 急進的な軍司令官をクビ
 - イ **議会共和党**から反発
- b 史上初の弾劾裁判(1868年)
 - ア 上院で弾劾訴追に及ばず、罷免回避



第2章 第1節戦後再建と19世紀

1 ユリシーズ・グラント政権

- a 汚職スキャンダルが多数多発
- b 74年の中間選挙で共和党過半数割れ

2 1877年の妥協

- a 1876年大統領選挙
 - ア 民主党：サミュエル・ティルデン
 - イ 共和党：ラザフォード・ヘイズ
 - ウ 史上稀にみる接戦で両党が勝利主張
- b ヘイズ勝利を承認
- c 代わりに南部の占領軍撤収

第2章 第2節革新主義と第一次世界大戦

1 第四次政党制

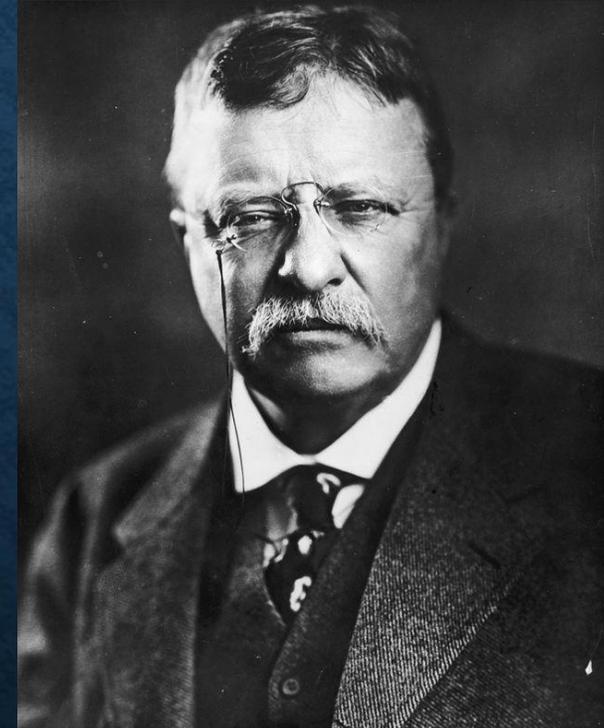
- a 交通・通信インフラの発達
- b 工業生産が英を抜き世界一
- c 産業資本主義社会における二大政党

2 革新主義の19世紀

- a 科学の知を政治・社会に利用
- b 有権者登録・予備選挙導入

3 セオドア・ルーズベルト政権

- a トラスト告発
- b 大企業も容赦せず
- c カリブ海・フィリピンへの武力展開



第2章 第2節革新主義と第一次世界大戦

4 1912年～ウィルソン政権と第一次世界大戦

a 当初は孤立主義から非介入

ア 実際は新英・ドイツを敵視

b 1917年4月 ドイツに宣戦布告

ア 孤立主義の放棄

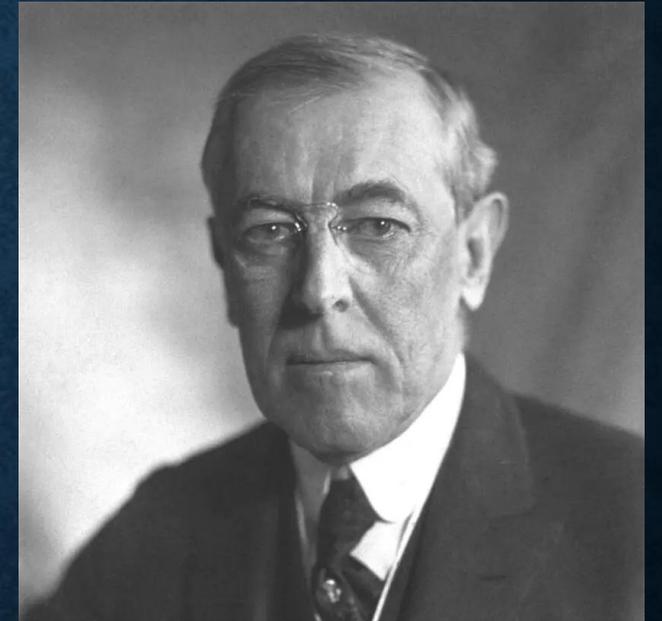
c 1917年11月 ボリシェヴィキ革命勃発

ア ウィルソンはソ連の動きに危機感

d 1918年11月 休戦協定

ア 翌年1月 国際連盟構想

イ 米は議会の反対で批准せず



第2章 第3節ニューディールと第二次世界大戦

1 戦後の共和党

- a.ハーディング、クーリッジ政権
- b.大戦後好景気における大企業優遇政策

2 フーヴァー政権と世界恐慌

- a.「すべての家庭に鶏肉と自動車を」
- b.1929年10月 株価大暴落
 - ア 有効な恐慌対策取れず
 - イ 退役軍人の恩給要求デモを物理的排除

BLACK TUESDAY

NEW YORK, TUESDAY, OCTOBER 29, 1929

THE STOCK MARKET CRASH OF 1929

BY BARBARA SILBERDICK FEINBERG

NEW YORK, OCTOBER 29— Another hurricane of liquidation hit the stock market today, as financial uncertainty fed on rumor and turned to panic. Frightened investors ordered their brokers to sell at any price, and the stock market crashed. Those on the floor of the Wall Street exchange waded in paper and tried to add up their losses.

It is believed those losses total billions of dollars. Thousands of accounts were wiped out as a record



Crowds Gathered On Wall Street As The Market Went Into Historical Decline

number of shares were traded. Some stocks were almost given away. Millions of shares traded hands.

Brokers on the floor of the Exchange have never seen a day like this. The shock on Wall Street spread to other exchanges and markets. It

was a country-wide collapse of security values in which losses were the most disastrous and far-reaching in the history of the Stock Exchange. There was near-panic on the Chicago commodities exchange. Rumors spread from one end of the United

第2章 第3節ニューディールと第二次世界大戦

3 F・ルーズベルトとニューディール

a 徹底的な恐慌対策

b 政府による積極的な経済介入

c 次第に南部が抵抗

ア 一部南部は参戦に肯定

4 第二次世界大戦

a 1939年 英仏vs独で交戦状態

b 孤立主義を再び転換

第3章 第1節「赤狩り」からの保守

1 戦後アメリカ政治

- a 副大統領トルーマンが昇格
- b インフレ対策
- c 1946年中間選挙で上下両院が共和党過半数

2 ニューディールにおける連邦政府の権限の対立

- a 南部民主党と野党共和党
- b 1948年大統領選挙
 - ア 民主党が3つに分裂
 - イ 共和党優位もトルーマン再選
- c 反共産主義による資本・自由主義重視

第3章 第1節「赤狩り」からの保守

3 アイゼンハワー政権

a ニューディールを容認

b 人種差別撤廃

ア 公教育での人種隔離を禁止

イ 南部諸州は抵抗

4 ソ連が人工衛星打ち上げに成功(1957年10月)

a 科学技術競争への危機感

b アイゼンハワーは国防費増額に消極

c 「軍産複合体」を警鐘

第3章 第2節民主党政権下での社会変容

1 民主党ケネディ政権

- a 強硬な対ソ外交方針
- b キューバ危機(1962年10月)

2 人種問題への着手

- a 公民権法の提出
- b 南部保守派による反対
 - ア 公民権法による社会構造変化を危惧
 - イ 連邦政府による社会介入を批判
- c 1963年11月 ケネディ暗殺



第3章 第2節民主党政権下での社会変容

3 ジョンソン政権と社会変容

a 社会福祉の充実

ア 連邦政府の力の肥大

イ GDP内の連邦政府歳出は1940年の倍

b ベトナム戦争激化と戦費増大

ア インフレが加速

4 既存社会への抵抗文化

a 反戦、フェミニズム、同性愛、中絶

b 反論:キリスト教的観念

c 民主党内は反戦派と継続派で対立

第3章 第3節「秩序の回復」共和党政権

1 「秩序の回復」 共和党

- a 本来民主党基盤の南部諸州で勝利
- b ケネディ・ジョンソン下での公民権反対

2 ニクソン政権(1968年～)

- a 冷戦の緊張緩和
 - ア 中華人民共和国初訪問
 - イ 米ソの戦略兵器縮小条約
- b 「小さな政府」白人中間層重視
- c ウォーターゲート事件

第3章 第3節「秩序の回復」共和党政権

3 フォード政権

- a 民主党福祉政策によるインフレ
- b 日本車の進出で3000万人が失業

4 共和党の保守傾向深化

- a 中ソ穏健外交に反発の勢力
- b 宗教右派の台頭

第4章 第1節レーガン・ブッシュの保守の時代

1 保守レーガン政権

- a 地方政府への権限の委譲
- b 対ソ外交の強硬化
- c アメリカの威厳回復
- d 景気回復も、軍事支出と貿易赤字

2 ブッシュ政権

- a 対ソ緊張緩和
- b 冷戦終結による中東情勢悪化
- c 湾岸戦争
 - ア 国内景気後退で戦勝ムードなし

第4章 第1節レーガン・ブッシュの保守の時代

3 1992年大統領選挙

- a 景気後退で現政権に不満
- b 医療費高騰で保険離脱事案続出
- c 民主党クリントンが保険改革主張
ア 370人の選挙人票で勝利



第4章 第2節クリントンの医療改革とブッシュ

1 クリントン政権

a 最重要の皆保険制度

ア 市場の変化や新たな負担を危惧

イ 廃案

b 1994年中間選挙

ア 下院共和党が反クリントンで一致

イ 共和党が多数党化

2 福祉制度改革

a 両党妥協の形で成立

第4章 第2節クリントンの医療改革とブッシュ

3 2000年大統領選挙

- a 民主党ゴア対共和党ブッシュ
- b ブッシュは宗教右派など味方に当選

4 ブッシュ政権の戦い

- a 2001年9月 同時多発テロ
 - ア アフガニスタン侵攻
 - イ イラク侵攻
- b 他国への武力介入「ネオコン」
- c リーマンショックで支持率低下

第4章 第3節新たなリーダー・オバマと分断

1 新たなリーダー

- a 初の黒人大統領オバマ
- b 公共事業など7870億ドル
- c 医療保険改革の挑戦
 - ア 保守からの反対「茶会運動」

2 国民の不満と新たな保守

- a リベラル政権での不十分さ
- b 格差の拡大
- c 2016年ドナルド・トランプ登場
 - ア 「アメリカ・ファースト」

第4章 第3節新たなリーダー・オバマと分断

3 バイデン政権とコロナ

- a 民主党は反トランプとして結束
- b COVID-19パンデミック
- c 2020年バイデン政権で「大きな政府」
- d 支持率低迷に苦しむ

4 2024年トランプのカムバック

- a 7月の暗殺未遂で強さアピール
- b バイデン下でのインフレ批判

今後の展望

1 若い世代の意識

- a 人権、環境など社会正義
- b 多様性、公平性、包括性(DEI)
- c 企業側も差別反対メッセージなど
- d バイデン政権で国際協調

2 トランプ派

- a リベラルと戦う「文化戦争」
- b 白人・宗教右派へのアピール

今後の展望

3 今後の推測

a トランプ派の政治が継続と推測

b 多数がLGBTなどより経済などリアルな問題重視